

実践プラン例（2）

独居高齢者と紅葉狩りに行こう
～一緒にお食事しませんか～

<エピソード>

公民館職員の A さん。自分が担当する弁当作り講習会の企画案をつくっていると、公民館の休憩スペースからサークル活動の参加者の会話が聞こえてきました。
 B さん「最近、校区福祉委員会で月 1 回している「ふれあい食事会」盛りあがらないなあ」
 C さん「新しい人が来てくれて、新たな話題を出してくれたらなあ」
 B さん「来ない人は何をしても来ないのでは」
 C さん「この前、公園でたまたま話したおじいちゃんがかつて庭師さんだったんだって。食事会には来てないけど、桜や紅葉の名所をいろいろ話してくれたよ」
 B さん「そうかあ、そのおじいちゃんの話を知りたいという人がたくさん出てきて誘いに行けば、来てくれるかもしれないなあ」
 こんな会話を聞いていた A さんにはある企画のイメージが湧いてきました。

ここが
ねらい

「みんなで一緒に食べる」という楽しい活動を通して、ひきこもりがちな高齢者を地域活動に誘い込む

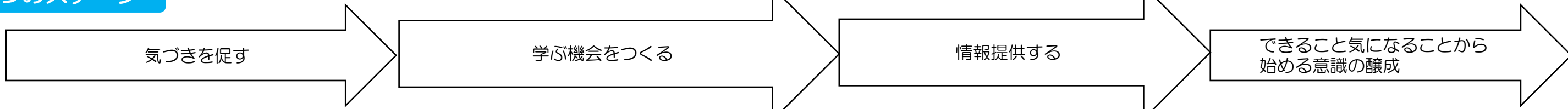
○概要

春のお花見会をきっかけとして家にこもりがちな独居高齢者がいることへの気づきを促し、独居高齢者の社会参加に向けて自分ができることを考えてもらうプラン。「紅葉狩り」に誘ったり、企画するためのボランティア活動に参加する住民が出てくることが目標。

参加者：敬老会会員、地域住民
 実施場所：近所の公園、公民館等社会教育施設



4つのステージ



取組内容

参加者の
気持ちの
変化

◆おかず一品持ち寄りお花見会

- 敬老会が「春のお花見会」を、できれば手作りおかず一品持ち寄りで実施
- 校区福祉委員会の人、家にこもりがちな独居高齢者の話題をそれとなく切り出す。

<ここがポイント>

おかずの見せ合いが始まり盛りあがるように演出する。

○気づく

「料理はヘタだし、面倒くさいけどみんなで一緒に食べるいろいろな話を聞いて楽しいな」
 「何であそこのおじいちゃんが出てこないのだろう」

◆おかず作り講習会×福祉活動紹介

- 「簡単でヘルシーで豪華に見えるおかず作り」講習会（講師：中学校家庭科の先生）を公民館が実施
- おかず作り終了後のお食事会で校区福祉委員会が活動を紹介。その中で家にこもりがちな独居高齢者の現状（どこに住んでいるのか、生活の質はどうか）も説明

○学ぶ

「校区福祉委員会っていろいろな活動をしているんだなあ」
 「家にこもりがちな高齢者は一日中誰とも話をしない日があるのか」

◆メール等直送作戦

- 公民館が高齢者問題に取り組んでいるNPO法人や校区福祉委員会等の活動情報（ボランティア募集情報）を断続的に講習参加者へ直接メール等で情報提供する。

○知る

「どんな人がNPOの活動をしているのだろう、一度会ってみたい」
 「校区福祉委員会のイベントに子どもと一緒に参加してみようかなあ」

◆お誘い×出番の提供

- 敬老会がNPOと協働で「秋の紅葉狩り」をおかず持ち寄りで開催
- そのNPOのボランティアとして活動を始める人、ボランティアは無理でも家にこもりがちな独居高齢者を紅葉狩りに誘いに行く人が出てくる。

<ここがポイント>

独居高齢者が活躍できることを（紅葉の名称紹介など出番）を用意する。

○始める

「誰かを誘いに行くぐらいだったら協力できるなあ」
 「ボランティア活動すると知り合いと世界が広がるなあ」

つぎへの工夫！ もっとうまく作れるおかず作り講習会を企画してみませんか！

つぎへの工夫！ 講習参加者が知りたいと思っていることを食事会で聞き出し情報提供

つぎへの工夫！ 関心の高い人をつかんでおき直接電話で協力を呼びかける。

関わる団体と
役割分担の
イメージ

